

---

第2回 公式参加国共創フォーラム ～大阪・関西万博に向けて  
開催報告

---

## 第2回 公式参加国共創フォーラム ～大阪・関西万博に向けて 開催報告

### 開会の挨拶

井垣 貴子氏 一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構 代表理事

「第1回公式参加国共創フォーラム」は3月23日に、開催しました。大阪・関西万博まであと675日の本日、「第2回公式参加国共創フォーラム」を開催できますことを厚く御礼申し上げます。夢洲新産業・都市創造機構は産学公の法人会員が270法人を超え、会員数も約1200名に達しています。夢洲機構が「公式参加国共創フォーラム」を継続開催すると共に、「いのち輝く未来共創国際イニシアティブ」を推進することにより、世界の公式参加国と日本全国の自治体や企業、大学等の交流やビジネスのコモングラウンドが形成され、未来社会を創造するグローバルな共創の輪が広がっていけば幸いです。

### 第1部 講演

#### ◆講演 I

姫野 勉氏 政府代表 特命全権大使（関西担当）



政府代表関西担当大使という立場から、万博についてと現在の予想される時代環境についてお話します。

世の中には、気候変動やエネルギー、食料・農業、健康・保険など、色々な大きな課題があります。

その中で、信頼が重要になり、パートナーを注意深く選ばなければならなくなったことで、日本が世界にとって魅力的になっています。そのような状況下で2025年大阪・関西万博が開かれます。日本、そして

大阪に注がれる眼が熱くなっていることを活用していただきたいと思います。

2025年の万博の重要性は、2025年の半年だけではありません。既に世界の大阪、関西、日本への関心が高まっています。2025年を待つことなく、今、世界の仲間と繋がってください。夢洲を越えて、日本中で、万博を越えて更に花開くと思います。

6月2日に万博のテーマウィークについて、8つのテーマが発表されました。「地球の未来と生物多様性ウィーク」「健康とウェルビーイングウィーク」「平和と人権ウィーク」「食と暮らしの未来ウィーク」「学びと遊びウィーク」「未来への文化共創ウィーク」「未来のコミュニティとモビリティウィーク」「SDGs+Beyond いのち輝く未来ウィーク」で、各テーマの時期は、何かやりたいという方々と相談して検討していますので、ご関心があれば、主催者側に相談していただきたいと思います。

関西広域パビリオンについてお話します。大阪ヘルスケアパビリオンの横に、大阪府を除く関西広域連合に加盟している滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県が参加し、パビリオンの中に県ごとのコーナーと共同スペースがあります。

その隣に、大阪ヘルスケアパビリオンがあり、広い意味のライフをケアするというもので、協賛企

業の展示に加え、スタートアップ・中小企業コーナーがあります。万博開催中の26週間、それぞれにミニテーマがあり、テーマに応じて各10企業にご参加いただけます。大阪商工会議所を含めて色んなサポーターがいますので、是非お申し込みください。スタートアップ・中小企業コーナーは、14の支援団体が一定期間ずつ担当し、各週の10企業を1年間、前段階からサポートされます。

関西広域パビリオンと大阪ヘルスケアパビリオンは、それぞれの府県、市、商工会議所、産業界が一緒に取り組むチャンスです。例えば、先日岸田首相が東京の「新しい資本主義会議」でいくつかの政策や重要分野が挙げられましたが、その1つがバイオテクノロジーです。第2部にご登壇される澤田様が委員長をされているバイオの世界で府県を越えた「バイオテクノロジー関西」という取り組みもあります。万博に向け、皆で共創していきたいと思います。

## ◆講演Ⅱ

**Carolyn Davidson (キャロリン・デービッドソン) 氏 英国総領事館 英国総領事**

英国首相のG7サミットの日本訪問は大成功で、貿易・投資、防衛、科学技術など、幅広い分野における日英の世界戦略的パートナーシップの強化や、再生可能エネルギー、半導体、サイバーなどの世界的な課題に取り組むためのパートナーシップの確立を定めました。そのような状況の中、大阪・関西万博は日英協力に取り組む絶好のタイミングです。

英国は、万博に向けて積極的に取り組んでおり、気候変動、科学技術、文化・芸術に焦点を当てて科学技術の強み、イノベーション精神、物事を異なる角度から見る視点を提示します。準備は順調で、パビリオンの設計業者が決定し、デザイン・ビルト方式で調達を行います。

英国はイノベーション大国であると同時に、世界で最も協力が盛んな国です。研究論文の引用数は世界3位であり、日本とも研究分野で多くの協力を行っていますので、万博を通して更に協力を進めていきたいと思っています。

日英の連携について重要なことは、社会をより良くするチャンスとすること、関わる多くのステークホルダーと早い段階から調整すること、人を中心に置くこと、国際的に将来を形作るものとなるレガシーについて考えることです。

ここからはサイバーセキュリティに焦点を絞ります。2012年ロンドンオリンピックを担当した英国のサイバー専門家オリバー・ホーア氏からのメッセージを紹介します。

「大規模イベントは、会場・インフラ・物流・交通網整備、チケットシステム、防災システム、テロ対策など非常に複雑です。また、先端技術を実証によるアピールの場としても利用されるため、非常に注目度が高いです。サイバーレジリエンスの観点から重要なことは、戦略的統合とリスク評価、24時間体制のインシデント対応チームの設置、検証と演習を繰り返すことです。」

それでは、オリバー氏と緊密に取り組んできたサイバーセキュリティの専門企業ダークトレースを紹介します。



共同登壇：佐伯 優介氏 ダークトレース・ジャパン株式会社 セールsteamリーダー



一般的なセキュリティ製品は、ルールベースで判断する製品が多いですが、ダークトレースは、自己学習型 AI であり、2022 年 FIFA ワールドカップと 2020 年東京オリンピックでも採用されました。大規模なイベント開催時は、運営組織だけでなく、一般企業も狙われる可能性が非常に高くなるので、セキュリティで足りない部分を補完する必要があると思います。

Carolyn Davidson 氏 英国総領事館 英国総領事

英国は日本政府や関係者と協力し、大阪・関西万博を成功に導きたいと考えております。

### ◆講演Ⅲ

Felix Moesner (フェリックス・メスナー) 氏 在大阪スイス領事館 領事・領事館長

2025 年万博は、大阪・関西、そして世界中と繋がる素晴らしい機会です。

まず、9 月 30 日にグランドオープンする新スイス領事館について、東京オリンピックの頃、当時のスイス大統領が日本で新領事館について発表し、昨年、次の大統領が大阪で起工式を行いました。科学に焦点を当てた日本初の重要な領事館です。御堂筋のアメリカ領事館近くで、大きなイベントスペース、オフィスがあり、通りからよく見えるオープンな雰囲気です。



産学公と幅広いネットワークを築いています。重点的な活動として、京都の STS フォーラム、ダボス会議、大学や高校での講演会があり、エイジングの分野では日本から学び、解決策を検討したいと考えています。関西での科学技術の外交サークルも重要で、オープンな外交基盤を築くと共に、関西を世界に発信する目的もあります。新領事館と万博についてメディアで広く取り上げられており、スタートアップ、エイジング、サステナビリティを重点的に、スイスパビリオンを進めていきたいと思っています。

スイスのパビリオンのテーマは地球、生命、人間拡張で、スイスネックスと共同で取り組みます。イノベーション、マジック、ライトネス、サステナビリティ、栄養をキーワードとし、来場者 150 万人を見込んでいます。パビリオンは 6 つの球体で構成され、スイスの文化・経済について発見するエリア、そしてマジックとして共創エリアでシャボン玉を作ることができ、探検のエリアへと続きます。共有エリアでは展示品があり、スイスの製品を販売するお店もあります。屋上では海の見える素晴らしい景色を楽しんでいただけます。パネルディスカッションやイベントができる多目的室もあります。

「バイタリティ・スイス」と題して 2025 年万博への準備プロジェクトを昨年立ち上げ、3 つの重点



分野を設定しています。「人間中心のイノベーション」：ロボティクスとAI、「サステナブルな地球」：環境、サステナビリティ、気候、エネルギー、「健康な命」：ライフサイエンス、健康、栄養です。英国同様、共に協力をして大阪・関西万博を成功に導きたいと思いをします。

## 第2部 共創ディスカッション

### <登壇者>

- ◆姫野 勉氏 政府代表 特命全権大使（関西担当）
- ◆Carolyn Davidson 氏 英国総領事館 英国総領事
- ◆Felix Moesner 氏 在大阪スイス領事館 領事・領事館長
- ◆廣瀬 恭子氏 (株)広瀬製作所 代表取締役社長 / 大阪商工会議所 副会頭
- ◆澤田 拓子氏 塩野義製薬(株) 取締役副会長 / (公社)関西経済連合会 副会長

### <モデレーター>

- ◆高橋 朋幸氏 (株)三菱総合研究所 執行役員 営業本部長



高橋 朋幸氏：まずは第2部よりご登壇いただく廣瀬様、澤田様、そして第1部でご講演いただいた姫野様にご感想、ご質問をお伺いしたいと思います。

廣瀬 恭子氏：万博への期待が高まり、万博の意義について考えました。英国パビリオンは伝統とイノベーションの国らしいパビリオンだと思っています。デービッドソン様には、万博に海外から多くの方に訪れていただくためのアドバイスをいただきたいと思っています。

スイスは美しい自然とイノベーションの国で、先程見せていただいたパビリオンも環境にも配慮した美しいものだと思います。メスナー様には、大阪にスイスネックスをつくられた理由を教えてくださいたいと思います。



澤田 拓子氏：パビリオンの詳細が分かるとより興味が増しますので、これから2年間で機運を高めていければと思います。

姫野様のご講演でお話いただきました「バイオコミュニティ関西」について、内閣府から相談を



受けたもので、バイオを活用したエコシステムの構築が大きな目的で、関西の各経済団体のご賛同を得て、関西一丸となってエコシステムを構築して社会課題を解決すべく設立されました。

主要な3つのテーマは、プラネットヘルスの観点からの社会課題解決、食・農業、ライフサイエンスで、それをサポートするために必要な再生エネルギーやデータ、IT系も基盤として分科会をつくっています。それぞれのステークホルダーを実際に繋げて、

協力して目的に向かって進んでいく場所として機能させるようにしており、グローバルに展開するために、各国大使館、領事館とも協議させていただいております。

今回、万博を活用し、エコシステムをグローバルに展開することが重要だと考えています。エコシステムの先駆者である両国のご経験に基づいて、ご意見と日本のエコシステム構築の課題についてお話いただければと思います。

**姫野 勉氏**：英国については、パビリオンへの関心を高めてくれたと思います。複数のテーマが掛け合わされてダイナミックに形になることを期待しています。

スイスについては、パビリオンについて1970年万博と今回との違いに現れているサステナビリティを追求しながら未来に向かっていこうというものもスイスのイノベーションだと思います。

開催地として世界中から来訪いただきますが、日本を好きになっていただき、観光客としてリピーターになっていただくだけでなく、仕事や、家族と生活もしていただきたいという希望を持っています。日本に住んでいる経験を含めて、海外の方が住んで仕事をする上でのご提案をいただきたいと思っています。



**高橋 朋幸氏**：ではまず、デービッドソン様、多くの人に訪れていただくアイデアとエコシステム構築のためのポイント、そして日本を好きになって生活して仕事していただくために日本が更にできることについて、お聞かせください。



**Carolyn Davidson 氏**：まず海外からの訪問者を増やす方法は、海外のパートナーと組んで、設計段階から外国人を引き付ける見方を取り入れるのが良いと思います。英国パビリオンでも日本の見方を取り入れるようにと常に言っています。グローバルなお客様に最高のエクスペリエンスを提供するために容易で効果的な方法は、グローバル企業が参加できるようなオファーをすることです。国際的な基盤が必要であり、そのためには多くの情報を英語でも提供する必要があります。英国や他の国でも

マネジメント、トレーニング、人材開発などに優れた経験を持つ企業が世界中に多くあるので、是非世界に向けてオープンであって欲しいと思います。

エコシステム構築については、英国は研究やイノベーションのエコシステムについて多くの経験があり、異なった分野を繋げることに取り組んできました。産学公が協力して取り組むことが、イノベーションの鍵になると思います。

そして、訪問客に居住してもらう方法について重要なことは、今から関係づくりを始め、海外の人との交流をオープンに行い、日本・関西で英語力を高めることです。言葉の壁は大きな障害となります。国際都市をつくるのであれば、英語が必要です。

**高橋 朋幸氏**：では、メスナー様、大阪にスイスネックスをつくった理由、エコシステム構築のためのポイント、そして日本を好きになって生活して仕事していただくために日本が更にできることについて、お聞かせください。

**Felix Moesner 氏**：まず、大阪に領事館を置く理由は、万博開催の素晴らしい時期であることも1つの理由ですが、日本はスイスにとって、科学技術にとって重点地域であり、特別な領事館をつくるための相応しい場所が必要でした。関西地域は日本で2番目の経済的なパワーハウスであり、大学からノーベル賞受賞者も多く輩出されイノベーションが生まれる場所でもあり、スタートアップが進出する需要に満ちているので、ここに拠点を置いて、関西を世界に知らせたいという思いがあります。



エコシステム構築については、いかに次のレベルに進むかが重要です。スイスがイノベーションが盛んな国である理由は、全ての人を教育するということです。スイスでは、大学進学率は25%で、他の人は職業訓練を受けます。最も重要なことは、国民全員が社会の一員であるという自覚を持つことです。現在スイス住民の約30%が外国人で、大学では50%が留学生です。このような多様性が強いエコシステムをつくっています。



訪日外国人に居住してもらおうという点については、やはり英語が重要です。例えば、学生のカリキュラムで半年間の留学プログラムがあれば、英語や他の言語を学ぶことで多様性が増すと共に、シンプルなプロセスを学び、視野が広がって帰国した時に役に立ちます。

**高橋 朋幸氏**：デービッドソン様、メスナー様のお話をお聞きになってのご提案やメッセージを願います。

**廣瀬 恭子氏**：大阪商工会議所も更なる国際交流に力を入れており、1 つ目は万博での大阪パビリオンへの中小企業やスタートアップの展示の支援、2 つ目はグローバル・イノベーション・フォーラムで海外のスタートアップと日本、大阪の企業を繋ぐこと、3 つ目は様々な実証実験を大阪で支援していますので、是非ご注目いただきたいと思います。連携とイノベーションが必要であることがよく分かりました。



**澤田 拓子氏**：万博の会期中に「スタートアップ Expo2025」の開催を検討しています。万博の開催期間中だけでなく、バイオコミュニティ関西でテーマとしている内容を、テーマを少しずつ変え、国際シンポジウムとして海外のスタートアップの方々を継続的に招いていきたいと思いますので、ご協力いただきたいと思います。

**姫野 勉氏**：I' m very happy. 大変有意義なディスカッションとなり、満足しています。



### 閉会のご挨拶

**高橋 朋幸氏** (株)三菱総合研究所 執行役員 営業本部長

本日のフォーラムでは、日本政府、英国、スイス、それぞれの取り組みについてご紹介いただいた後に、様々な交流やイノベーションのあり方などについてご発言、ご提案いただきました。

第1回公式参加国共創フォーラムでは、「Together」、「Co-Creation」、「Innovation」をキーワードに





活発なご意見をいただきましたが、本日の第2回は、「連携」、「スタートアップ」、「エコシステム」というキーワードを中心にお話いただきました。

夢洲機構ではCo-Creation Forumを継続的に開催し、産学公の交流やビジネスの多様な場を拡げると共に、本フォーラムを契機に「いのち輝く未来共創国際イニシアティブ」を推進し、未来社会を創造する国際的な交流・競走の輪を拡げてまいりたいと思いますので、ご支援をお願いします。

以上